

環境情報コース	9568	氏名 橋本雄一郎	指導教官 市川智史教官
---------	------	----------	-------------

論文題目	ペットボトルを題材とした環境教育プログラムの開発 —「ペットボトルに関する知識の探求」—
------	---

### 【はじめに】

「大量生産・大量消費・ぼちぼちリサイクル」という言葉が聞かれる今日、リサイクル（再生利用）ではなく、製品をリユース（再使用）することは、生産、消費を低減する上で重要である。ペットボトルは近年になって急激に需要の伸びている代表的な製品である。このペットボトルの処分については、一般的に最も環境に良い処理方法とされているリサイクルでさえ、他の容器のリサイクルと比較すると環境負荷が大きいことがわかっている。本研究では、大学生、社会人のペットボトルのリユースに向けた意識改革をねらいとした環境教育プログラム「ペットボトルに関する知識の探求」の開発に取り組んだ。

### 【「ペットボトルに関する知識の探求」の開発】

#### 1. ねらい

ペットボトルの性質、そしてその処分の際に生じる環境負荷について知識を深めてもらうとともに、リサイクルに代わる処理方法、リユースを提唱し、それに関する諸問題について知識を深めてもらう。

#### 2. 内容

出題形式はプレゼンテーションソフト「Power Point」を用いたQ&A形式を採用した。Q1～Q6の計6問で構成されており、問題の出題、正解の提示はすべてPower Pointを用い、Q1～Q4は個人解答、Q5、6はグループ解答とした。配布用紙はQ1～Q6の質問用紙と事前アンケート用紙の2部を用意した。

#### 3. 各質問のねらい

事前アンケート：被験者のペットボトルに対する関心度をみる。

Q1：ペットボトルと他の飲料容器（アルミ缶、スチール缶、ビン）の出荷比率をみる。

Q2：ペットボトル容器の使用率がここ数年で伸びてきているという事実を確認する。

Q3：どれくらいの量のペットボトルが再生利用されているのかをみる。

Q4：欧米と日本のリサイクル率を比較し、日本がどの位置にいるか確認する。

Q5：リサイクルが必ずしもベストな処理方法でないという事実を知ってもらう。

Q6：最もよい処理方法を実行に移せない問題点をディスカッションによって討論し、知識を深める。

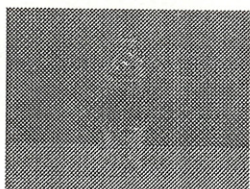
### 【プログラムの到達点】

このプログラムの各質問の到達点を示す。Q1～Q5ではほぼ満足に行く結果が得られた。特にQ5では「リサイクル＝環境によい」という図式をほとんどの日本人が持っているということ的前提にして、この質問を作成した。この当初のねらいどおり、ほとんどの人がリサイクルが環境に最もよい処理方法と考えていたことが、選択肢の理由からわかった。事後アンケート結果にある最も印象に残った質問として最も多くの人がこのQ5をあげていたことから、被験者が今まで持っていた常識を覆すような質問であったと言えよう。それに対しQ6は、被験者から、リユースを実行に移せない様々な理由を、様々な見解から考え得るだけ意見を出してもらい、討論するという展開を意図した問題だった。しかし討論の時間が短過ぎたことや、グループ討論の温度差に違いがあったので、この質問に関しては満足のいく結果が得られなかった。

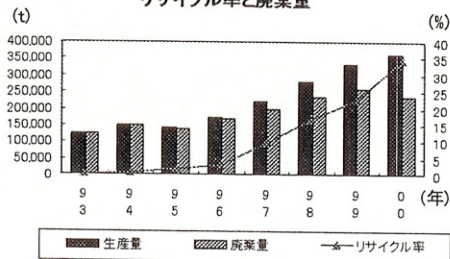
Q3

2000年現在の日本のペットボトルリサイクル率はどれくらいだと思いますか？

1. 7割
2. 5割
3. 3割
4. 1割



リサイクル率と廃棄量



出典：ペットボトルリサイクル推進協議会

上のグラフより35%弱までリサイクル率が向上